

# 令和7年度病害虫発生予察情報 注意報第8号

令和7年7月31日  
岩手県病害虫防除所

県内各地のりんご園地でハダニ類が多発しています。

園地をよく観察し、発生が目立つ場合は速やかに防

除しましょう。

- 1 対象作物、病害虫 : りんご、ハダニ類
- 2 対象地域 : 県下全域
- 3 発生時期（感染時期） : -
- 4 発生量 : 多
- 5 予報の根拠

(1) 7月後半の巡回調査では、発生園地率はナミハダニが54.8%（平年34.9%）、リンゴハダニが38.7%（平年29.0%）でともに平年より高かった。（図1）。

(2) ハダニ類の時期別発生園地率は、6月は平年より低く推移したが、7月以降平年並から平年より高く推移している（図2）。

(3) 向こう1か月（7/26～8/25）の気温は平年より高い予報であり、ハダニ類の増殖に好適な条件である。

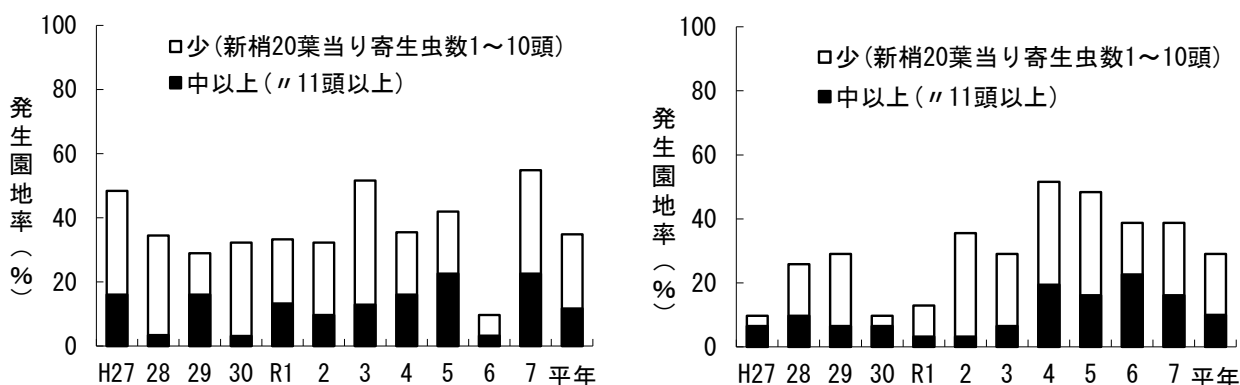


図1 ハダニ類の発生園地率の年次推移（7月後半、目通り、左：ナミハダニ、右：リンゴハダニ）

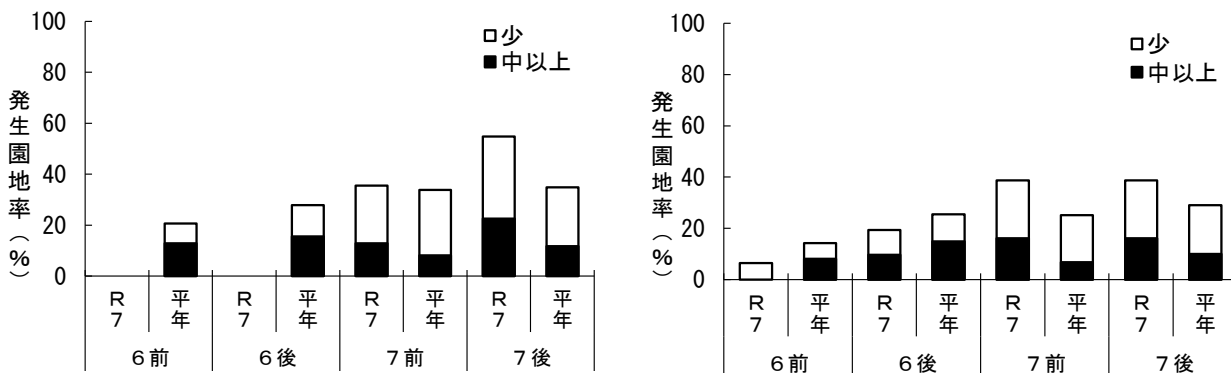
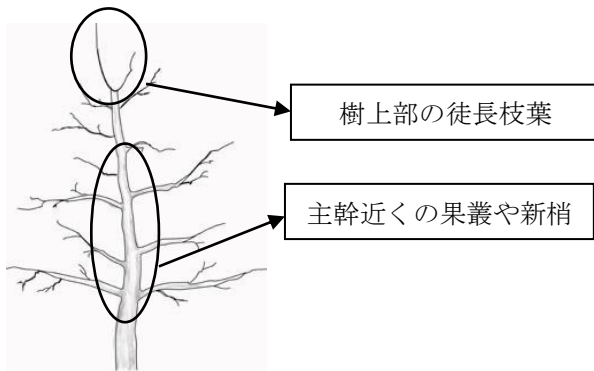


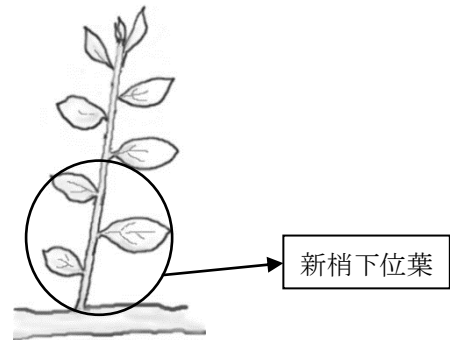
図2 ハダニ類の時期別発生園地率の推移（目通り、左：ナミハダニ、右：リンゴハダニ）

## 6 防除対策

- (1) ハダニ類の要防除水準は寄生葉率 30%である。わい性樹では主幹近くの新梢葉、普通樹では主幹・主枝の徒長枝の下位葉を良く観察する。なお、目通りでの発生が少なくても、樹上部で多発している場合があるので、樹上部の徒長枝葉も観察し、要防除水準に達した場合は直ちに防除を実施する。



わい性樹での観察場所



新梢での観察部位

- (2) 夏期はハダニ類の増殖が速いので、防除適期を逃がさないよう注意すること。
- (3) 薬剤が樹上部までかかるよう十分量を丁寧に散布する。不要な徒長枝は散布ムラの原因となるので、早めに剪除し薬剤のかかりやすい樹形を維持する。
- (4) 薬剤抵抗性ハダニの発現回避のため、同一系統の薬剤は1シーズン1回の使用に限る。また、複数年を単位とした薬剤のローテーションを遵守する。
- (5) 殺ダニ剤のダニオーテフロアブルは、銅剤との混用により効果の低下が懸念されるため、混用しない。また、近接散布による効果の低下を避けるため、ダニオーテフロアブルの散布から10日以上は銅剤を散布せず、銅剤散布後は1か月以上ダニオーテフロアブルを散布しない。

### ☆農薬危害防止運動実施中(6/1～8/31)☆

#### 【利用上の注意】

本資料は、令和7年7月23日現在の農薬登録情報に基づいて作成しています。

- ・農薬は、使用前に必ずラベルを確認し、使用者が責任を持って使用しましょう。
- ・農薬使用の際には、(1)使用基準の遵守(2)飛散防止(3)防除実績の記帳を徹底しましょう。

【情報のお問い合わせは病害虫防除所まで】 TEL 0197(68)4427 FAX 0197(68)4316

☆この情報は、いわてアグリベンチャーネットでもご覧いただけます。  
アドレス <https://www.pref.iwate.jp/agri/i-agri/boujo/index.html>